

予報第5号(9月)

農推第 2078号
平成 27 年8月 31 日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について次のとおり発表したもので送付します。

病害虫発生予報第5号(9月)

農作物名	病害虫名	予想発生量
水稲	いもち病	○
	紋枯病	□～△
	内えい褐変病	○
	もみ枯細菌病	□～○
	セジロウンカ	□～△
	トビイロウンカ	□
	ツマグロヨコバイ	□～△
	ニカメイガ(ニカメイチュウ)	△
	コブノメイガ	□
	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	△

	斑点米カメムシ類	□
ぶどう(デラウエア)	べと病	○
	褐斑病	○
みかん	黒点病	□
	そうか病	□
	ミカンハダニ	□
	ミカンサビダニ	□
果樹全般	果樹カメムシ類	△
なす	うどんこ病	□~△
	褐色腐敗病	□
	褐紋病	□~○
きゅうり	うどんこ病	□
	炭そ病・褐斑病	□
	べと病	□
	ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)	□~△
	コナジラミ類	□~△
トマト	コナジラミ類・トマト黄化葉巻病(TYLCV)	□~△
キャベツ等あぶらな科野菜類	コナガ	△
	ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)	□
野菜・花き・大豆	アブラムシ類	□~△
野菜・花き類	ミカンキイロアザミウマ	□
	ミナミキイロアザミウマ	□~△
	シロイチモジヨトウ	△
	ハスモンヨトウ	□
	オオタバコガ	○
	ハダニ類	□~△
	ハモグリバエ類	△
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

9月気象予報(気象庁8月27日発表。1ヶ月予報)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	40	40	20
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

A 水稲

【いもち病(穂いもち)】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、中山間部において北部を中心に葉いもちの発生がやや多く、一部のほ場では止め葉にも発病が見られた。平坦部においても一部のほ場で葉いもちの発生が見られた。(8月20日病害虫防除情報発表)

(2)8月中下旬の降水量はやや多かった。(気象庁ホームページ 8月26日まで20日間の大阪の気象データ 気温 28.3°C(平年差-0.5°C)、降水量 163.5mm(平年比 282%)、日照時間は 95.3 時間(平年比 76%))

(3)9月の気象予報は気温はやや低く、降水量はやや多く、日照時間はやや少なく、いもち病が発生しやすい条件となっている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)穂いもちの発生は上位3葉の葉いもち病斑と相関が高いので、葉いもち(特に進行性病斑)が上位葉に発生している場合は、使用基準(収穫前日数)に留意して、穂いもち防除を実施する。

(2)発生初期に防除を徹底する。

(3)近年他府県において QoI 剤耐性菌の発生が報告されている。QoI 剤の使用は1作1回に留める。

QoI 剤成分例:アゾキシストロビン(アミスター)、オリサストロビン(嵐)、
メミノストロビン(イモチエース、オリブライト)等

[メモ]

(1)低温多雨、日照不足で発病が多くなる。

【紋枯病】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。

(2)9月の気象は気温はやや低く、降水量はやや多い、日照時間はやや少ないと予想されている。

[メモ]

(1)高温、多湿で発生が多くなる。

(2)窒素過多、密植栽培、畦畔雑草の繁茂は発病を助長する。

【内えい褐変病】

[予報内容] 発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)8月中下旬の降水量はやや多かった。(気象庁ホームページ 8月26日まで20日間の大阪の気象データ 降水量163.5mm(平年比282%))

(3)9月の降水量はやや多いと予想されており、本病が発生しやすい条件となっている。

[メモ]

(1)開花期前後の強風や降雨により発生が助長される。

【もみ枯細菌病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)8月中下旬の降水量はやや多かった。(気象庁ホームページ 8月26日まで20日間の大阪の気象データ 降水量163.5mm(平年比282%))

(3)9月の降水量はやや多いと予想されており、本病が発生しやすい条件となっている。

[メモ]

(1)出穂前後の降雨により発生が増加する。

【セジロウンカ】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)8月の予察灯への飛来虫数は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)株元をよく観察し、発生の多いほ場では、薬剤散布を行う。

【トビイロウンカ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)8月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。

[メモ]

(1)8~9月の気温が高いと発生が多くなる。

【ツマグロヨコバイ】

[予報内容] 発生量:並~やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)8月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。

[メモ]

(1)平年の成虫発生ピークは、8月下旬から9月上旬である。

【ニカメイガ(ニカメイチュウ)(第二世代幼虫)】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)8月のフェロモントラップでの第一世代成虫(第2回成虫)の誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)防除適期は、発蛾最盛期から約1週間後の若齢幼虫時の9月上旬である。

[メモ]

(1)平年の第一世代成虫(第2回成虫)の発蛾最盛期は8月下旬から9月上旬である。

【コブノメイガ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[メモ]

(1)被害が多いのは第三世代幼虫の9月上～中旬である。

【フタオビコヤガ(イネアオムシ)】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)8月の予察灯への誘殺虫数はやや少なかった。

【斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメ等)】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)8月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)出穂から開花期頃を中心に成虫が飛来するため、開花期から穂揃期の防除が効果的である。

B 果樹

1 ぶどう(デラウエア)

【べと病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、露地ほ場で発生はやや多かった。ビニル被覆を外している

施設栽培ほ場でも発生を確認している。(7月15日病害虫発生予察注意報第1号発表)

(2)9月の気象予報は気温はやや低く、降水量はやや多く、日照時間はやや少ないと予報され、べと病が発生しやすい条件となっている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫終了後の園にも注意し、発生を確認すれば早期に防除する。

(2)府内において QoI 剤耐性菌が確認されている。他の系統薬剤を選択するなど、薬剤の選択に注意する。

QoI 剤成分例: アゾキシストロビン(アミスター)、クレソキシムメチル(ス

トロビー)、ファモキサドン(ホライズンの1成分)

(3) CAA 系薬剤は耐性菌を生じやすいので、使用は1年1回に留める。

CAA 系薬剤成分例:ベンチアバリカルブイソプロピル(ベトファイター)、マンジプロパミド(レーバス)

[メモ]

(1) 気温20~25度で、雨が多いと発生が増加する。

(2) 早期に落葉すると、再萌芽で貯蔵養分を消費し、樹勢が低下する。

【褐斑病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1) 8月の巡回調査では、発生はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 収穫終了後の園にも注意し、発生を確認すれば早期に防除する。

(2) 府内において QoI 剤耐性菌が確認されている。他の系統薬剤を選択するなど、薬剤の選択に注意する。(【べと病】の項参照)

[メモ]

(1) 早期に落葉すると、再萌芽で貯蔵養分を消費し、樹勢が低下する。

2 みかん

【黒点病】

[予報内容] 発生量: 並

【予報の根拠】

(1) 8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2) 8月中下旬の降水量はやや多かった。(気象庁ホームページ 8月26日まで20日間の大阪の気象データ 降水量163.5mm(平年比282%))

(3) 9月の気象予報は降水量はやや多く、日照時間はやや少ないと本病の発生しやすい条件となっている。

[メモ]

(1) この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

【そうか病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) 8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2) 8月中下旬の降水量はやや多かった。(気象庁ホームページ 8月26

日まで 20 日間の大阪の気象データ 降水量 163.5mm(平年比 282%)
(3)9月の気象予報は降水量はやや多く、日照時間はやや少ないと本病の発生しやすい条件となっている。

【ミカンハダニ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同一薬剤や同一系統の薬剤を連用すると、抵抗性が発達する恐れがある。

【ミカンサビダニ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)微小な害虫であるため、被害が発生するまで気がつきにくい。

3 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、やや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)果樹をよく加害するカメムシ類は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種である。

(2)なし、かきなどの果樹類を加害する。多発生した場合は、みかんやぶどうを加害することもある。

[メモ]

(1)8月頃から新世代成虫が羽化し、果樹園に飛来が見られる。

(2)園地によって発生量に大きな差がある。

C 野菜類

1 なす

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月後半の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

(1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【褐色腐敗病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月後半の巡回調査では、発生は平年と同様見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発病した枝や果実は、直ちにほ場外へ持ち出して処分する。

(2)初期防除が重要なので、発病を認めた場合にはすぐに防除を行う。

(3)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

[メモ]

(1)高温多湿時に発生が多く、梅雨後半の降雨、7～9月の雷雨や台風など、夏秋期の降雨は重要な発生要因となる。

(2)発生ほ場では、収穫果が出荷後に発病する場合がある。

【褐紋病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)8月後半の露地なす巡回調査では、一部ほ場で発生はやや多かった。近年発生が増加傾向にある。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ほ場内の排水を良好にし、密植を避け、窒素肥料が過剰にならないよう注意する。

(2)雨滴による胞子の飛散で発生が拡大するので、発病した果実や枝は、直ちにほ場外へ持ち出して処分する。

[メモ]

(1)種子伝染するので、自家採種を行う場合は、必ず発病していない健全な

株の果実から行う。

2 きゅうり

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月後半の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

(1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

(2)QoI 剤(アミスター、フリント)の連用は避ける。

(3)ブルームレス台木では、うどんこ病が発生しやすい。

【炭そ病】・【褐斑病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年と同様に見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウス内の過湿を避ける。

(2)窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。

(3)QoI 剤(アミスター、ストロビー)の連用は避ける。

【べと病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウス内の過湿を避ける。

(2)肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

(3)QoI 剤(アミスター、ストロビー、ホライズン)の連用は避ける。

【ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウスの開口部を寒冷紗等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(2)食害株の幼虫を捕殺する。

[メモ]

(1)ハウス抑制裁培の定植直後に発生が認められることが多い。

【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並からやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除に努める。

(2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(4)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5)ほ場周辺の除草にも努める。

3 トマト

【コナジラミ類】【トマト黄化葉巻病(TYLCV)】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月下旬の巡回調査では、コナジラミ類の発生はやや少なく、トマト黄化葉巻病(TYLCV)の発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)コナジラミ類の発生初期の防除に努める。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(0.4mm 目合)で被覆し、コナジラミ類成虫の侵入を防止する。ほ場周辺の除草にも努める。

(3)コナジラミ類の防除では、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(4)トマト黄化葉巻病に感染すると、治療薬はないので感染株はすぐに処分する。

[メモ]

(1)タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介する。

4 キャベツ等あぶらな科野菜

【コナガ】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

【ハイマダラノメイガ】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)8月下旬の予察灯への飛来虫数は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)セル成型苗では発生すると欠株を生じるので、発生初期に防除を徹底する。

(2)被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

[メモ]

[防除上考慮すべき事項]

(1)苗床は寒冷紗等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(2)食害の見られた株は、速やかに処分する。

D 野菜・花き・大豆

【アブラムシ類】

[予報内容] 発生量: 並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月後半の巡回調査で、なすでは発生は平年よりやや少なく、さといも、きくでは平年並であった。

(2)8月の黄色水盤への飛来虫数は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)少発生時の防除を徹底する。

(2)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

E 野菜・花き類

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の露地なす巡回調査の見取り調査や花たたき法による調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので、速やかに処分する。

(2)きくでは膜割れ前後の防除を徹底する。

[メモ]

(1)ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは、ウイルス病(TSWV等)を媒介する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の露地なす巡回調査の見取り調査や花たたき法による調査では、全般的には発生は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

(2)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(3)フェロモンディスペンサーを設置すれば、成虫の交尾を阻害し、被害を軽減できる。

(4)黄色灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる

【ハスモンヨトウ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)8月の露地なす、さといもの巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。
- (2)卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘葉し、ほ場から持ち出して処分する。
- (3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (4)黄色灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【オオタバコガ】

[予報内容] 発生量:やや多い

[予報の根拠]

- (1)8月の露地なすの巡回調査では、被害の発生及び産卵数は一部ほ場でやや多かった。(7月31日病害虫防除情報発表)
- (2)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年よりやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。
- (2)被害のあった新芽や果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。
- (3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (4)黄色灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハダニ類】

[予報内容] 発生量:並~やや少ない

[予報の根拠]

- (1)8月の露地なす、さといもの巡回調査では、発生は平年並からやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除を徹底する。

(2)同一系統薬剤の連用をしない。

[メモ]

(1)高温、乾燥条件で多発する。

【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の露地なす、トマトの巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウスの開口部を寒冷紗等(1mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailemail/mailmailservice/mousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約30件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室推進グループ

おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)